



防衛大学校説明会 「ハイレベルリクルータ」は海幕長



■第2回防衛大学校等説明会におけるリクルータと参加者の懇談



■第1回防衛大学校等説明会における海幕長講話



■第2回防衛大学校等説明会における海幕長と参加者の懇談



■第1回防衛大学校等説明会におけるリクルータによる防衛大学校概要説明



発行所
自衛隊長崎地方協力本部
長崎市出島町2番25号
TEL 095-826-8844



長崎地本公式HP



長崎地本公式X



長崎地本公式Instagram

自衛隊長崎地方協力本部は、防衛大学校の魅力を周知し、興味・関心を持って頂き、志願者や入隊・入校者の増加に繋がるよう引き続き積極的な募集広報活動に努めていく所存です。
(募集課計画班)

本説明会の参加者からは、「防大に行きたい気持ちが強くなった。」「不安が払しょくされた。」「キャリアパスについて具体的にイメージできた。」「との感想があり、自衛隊への理解促進及び受験・入校意欲の向上に繋がったものと考えます。」

海上幕僚長からは、現在の日本を取り巻く安全保障環境、進路として自衛隊を選んだきっかけ、防衛大学校・幹部候補生学校学生と若手幹部時代の経験談及び自衛隊の国内外における豊富なキャリアパスについて懇切丁寧、かつ、ユーモアを交えながら分かりやすい言葉を用いて講話・懇談をしていただき参加者からは好評であった。

他にも、若手幹部リクルータとの懇談は、参加者と年齢層が近いこともあり自衛隊をより身近な存在に捉える機会となった。

自衛隊長崎地方協力本部（本部長 佐々木昌貴 1等海佐）は、令和7年12月21日（日）防衛省長崎合同庁舎において第1回防衛大学校等説明会を、令和8年1月17日（土）佐世保合同庁舎佐世保出張所において第2回防衛大学校等説明会をそれぞれ開催し、ハイレベルリクルータとして海上幕僚長・齋藤聡海将の来崎を得られたほか、幹部リクルータを招聘した。



三自衛隊合格者説明会



長崎地本公式Instagram

陸上自衛隊

大村駐屯地



■大村駐屯地での陸上自衛隊合格者説明会における概況説明

海上自衛隊

佐世保教育隊



■佐世保教育隊での海上自衛隊合格者説明会における施設見学

航空自衛隊

芦屋基地



■芦屋基地での航空自衛隊合格者説明会における航空機見学

自衛隊長崎地方協力本部は、今後も合格者に自衛隊の魅力を周知し、合格者の不安を払拭するフォローに繋がるよう引き続き積極的な活動に努めていく所存です。
(募集課計画班)

参加者からは、「現役の隊員と懇談できたのが良かった。」「色々と質問することができて不安を解消できた。」等、入隊への前向きな意見が多く好評であった。

海上自衛隊合格者説明会及び陸上自衛隊合格者説明会では、それぞれの合格者及び保護者を対象に概況説明、施設見学及び基幹隊員との懇談を行い、航空自衛隊合格者及び保護者を対象に概況説明、施設見学、体験喫食、若年隊員との懇談及び航空機見学を実施した。

自衛隊長崎地方協力本部（本部長 佐々木昌貴 1等海佐）は、令和8年2月7日（土）、11日（水）に佐世保教育隊（司令 宇都宮俊哉 1等海佐）において海上自衛隊合格者説明会を、令和8年2月15日（日）に大村駐屯地（駐屯地司令 土肥崇紀 1等陸佐（当時））において陸上自衛隊合格者説明会を、令和8年3月4日（水）に芦屋基地（基地司令 兼田大助空将補）において、航空自衛隊合格者説明会をそれぞれ開催した。

説明会を通じて、合格者の入隊への前向きな意見が多く好評！



UH-1Hによる体験搭乗 大村駐屯地



■ 体験搭乗開始前にUH-1H前に集まった搭乗者たち



■ 大村駐屯地資料館「鎮西精武館」をマンツーマンの説明付きで見学する高校生



■ 装備品展示の偵察用オートバイに乗り雄姿を魅せる高校生



■ 陸自制服、戦闘服を試着する駐屯地隊員の子供



■ 陸上自衛隊の制服を試着してご満悦の高校生

自衛隊長崎地方協力本部（本部長 佐々木昌貴 1等海佐）は、2月7日（土）、大村駐屯地（駐屯地司令 土肥 崇紀 1等陸佐（当時））及び第4飛行隊（隊長 種物谷英憲 2等陸佐（当時））が計画する、大村駐屯地における陸上自衛隊のUH-1Hヘリコプターによる体験搭乗に参加した。

当日は募集対象者 27名のほか、大村駐屯地で勤務する隊員の家族を含めた64名が参加した。はじめに第4飛行隊クルーによる搭乗時の注意事項等の説明を受けた後全員で機体を背景にして記念撮影を実施し、体験搭乗が開始された。UH-1Hの軽やかな飛行に搭乗者たちは圧倒されるとともに眼下に流れる郷里の姿に感動を禁じえなかった。一方で地上から見送る人々も、春まだ遠い抜けるような蒼天に溶け込んでいくUH-1Hの姿に、大いに感銘を受けていた。

搭乗待ち或いは搭乗を終えた来場者向けに、駐屯地所属部隊から高機動車の体験搭乗や装備品展示が用意されており、偵察用オートバイに乗り満面の笑みを見せていた。あわせて、普段はなかなか見る事の出来ない資料館「鎮西精武館」の開放も行っており、キリシタン大名・大村純忠公以来の肥前大村藩から旧帝國陸軍の華々しい戦歴、警察予備隊、保安隊を経て陸上自衛隊の現在まで連続と連なる復活と栄光の歴史を体系的に学ぶことが出来る。肥前武士とその末裔たちの血と汗と誇りがそこにはあった。昭和期の長崎大水害や平成初期の雲仙普賢岳火砕流災害における陸上自衛隊の災害派遣による活躍も学ぶことが出来、学校では教えられないことのない内容に見学者は感銘を受けていた。

自衛隊長崎地方協力本部は、今後も郷土部隊と連携、協力しながら様々なイベントを実施し、一人でも多くの国民の皆様が防衛省・自衛隊に対するご理解を深めて頂く事に努めるとともに、自衛隊の魅力発信のため今後も尽力して参ります。
（募集課広報班）



■ 演奏中、豪胆にもピアノ演奏と指揮を同時に披露した第4音楽隊長・松田拓也 1等陸尉

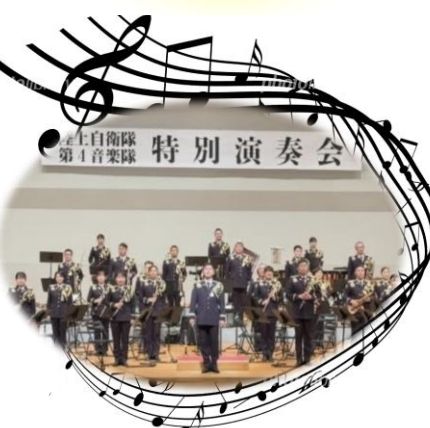


■ 第4音楽隊員が帰福する際、郷ノ浦港まで見送りに駆け付けた、壱岐市内の中学校吹奏楽部員



■ 長崎地本の募集広報ブースに集まる来場者

第4音楽隊、平戸、壱岐及び諫早における演奏で観客を大いに魅了！



■ 壱岐の島ホールで特別演奏を行う第4音楽隊の雄姿

自衛隊長崎地方協力本部（本部長 佐々木昌貴 1等海佐）は1月29日（土）、諫早文化会館において開催された第4師団（師団長 前島政樹 陸将）主催「第4音楽隊巡回演奏会 in 諫早」を支援した。第4音楽隊（隊長 松田拓也 1等陸尉）は福岡駐屯地を拠点に北部九州4県における各種演奏会や式典、博多どんたく港まつり等の主要なイベントで高い演奏力を披露する、実力派奏者が揃う音楽隊である。

これに先立つ令和7年11月16日（日）には平戸市まちづくり運営協議会（会長 谷田美幸（よしゆき）氏）の要請により平戸文化センターにおける「第4音楽隊巡回演奏会 in 平戸」を実施、平戸・松浦市内は言うまでもなく、遠くは佐賀、福岡からも熱心なファンが訪れた。1,300名の来場を得て、第4音楽隊の演奏に魅了された観客から送られた万雷の拍手は鳴りやむ事を知らなかった。さらに1月17日（土）には、壱岐防衛協会（会長 瀬戸口和幸氏）の熱心な尽力により壱岐市内での同会主催による「第4音楽隊特別演奏会」が実現、壱岐市民約500名が会場に詰め掛け、音楽隊の演奏に魅了された。第4音楽隊の演奏に感動した、壱岐市内の中学校吹奏楽部員たちが郷ノ浦港まで見送りに駆け付け、帰福する音楽隊員を大いに感動せしめることとなった。

今回の諫早演奏会では、前日までの降雪を含む天候不良から客足が鈍った可能性があるものの、諫早・長崎市域を中心に691名の来場者が会場を訪れ、音楽隊の演奏を大いに楽しんだ。一般的に、指揮者は舞台中央に立ち指揮棒を振るうのが常であるが、松田隊長は驚くべきことに、舞台中央に引き出したピアノを自ら演奏しつつ指揮を執るという超絶技巧を魅せ付けた。全体の指揮と自身の演奏を両立させるという、なかなか他の指揮者の演奏では見る事ができない、豪胆かつ繊細、天性の才能とたゆまぬ努力が結実した成果がそこにはあった。我々の度肝を抜くには十分すぎるものであり、観客から大いに拍手が上がった。

自衛隊長崎地方協力本部は、時に観客を魅了し圧倒し、時に安らぎと落ち着きを与えてくれる音楽隊の演奏を県民の皆様にもっとお届けするため、各自衛隊の音楽隊と連携、協力して演奏機会を得ていくとともに、防衛省・自衛隊へのご理解を深めて頂くことで将来の隊員募集が活発化、深化していくよう今後も尽力していく所存です。
（募集課広報班）



九州・沖縄地区防衛協会 連絡協議会長崎大会を支援

佐世保地方総監による記念講演

自衛隊長崎地方協力本部（本部長 佐々木昌貴1等海佐）は令和8年1月23日（金）、長崎市内で開催された九州・沖縄地区防衛協会連絡協議会主催による長崎大会において、会場準備や受付、来場者の案内誘導などの運営支援を実施した。本大会は長崎県防衛協会が主管し、九州・沖縄各県の防衛協会関係者をはじめ、多くの来賓が参加した。

大会では記念式典が行われ、参加者は日頃の防衛協会活動を振り返るとともに、九州・沖縄各地域における防衛意識の醸成と相互連携の重要性について認識を深められた。

続いて行われた記念講演では、海上自衛隊佐世保地方総監の福田達也海将が登壇し、我が国を取り巻く安全保障環境や海上自衛隊の任務・役割について説明された。また、自衛隊の人材募集の現状や、退職自衛官に対する援護施策についても述べられ、今後の支援の在り方について参加者に理解を深めて頂く機会とすることができた。

祝賀会には約250人が出席、九州・沖縄地区の自衛隊指揮官も多数参加し、長崎検番（※）による祝舞が披露されるなど、会場は終始和やかな雰囲気にもまれ、参加者同士が交流を深める機会となった。大会は盛会のうちに終了し、次回開催となる福岡県防衛協会への引き継ぎが行われた。

自衛隊長崎地方協力本部は、本大会の運営支援を通じて防衛協会との連携を一層強化するとともに、防衛基盤の充実と地域の結びつきの深化に寄与するため尽力して参ります。
（援護課援護総括班）

※長崎検番（ながさきけんぱん）…江戸時代からの伝統を受け継ぐ、長崎花柳界の中心的組織であり、観光イベントや秋の大祭「長崎くんち」における踊り奉納で有名

■ 記念講演の席上、各防衛協会関係者による日頃からの防衛省・自衛隊へのお力添えに厚く謝意を述べられる、佐世保地方総監・福田達也海将

■ 九州全土及び沖縄から遥々長崎の地に駆け付けた、各県防衛協会関係者



西部方面隊管内の地本で初の試み、円滑な再就職を支援



JOB FAIR



■ 集まった定年退職官予定者及び任期満了退職予定者と各企業の人事担当者の熱意により、会場は冬の忘れる熱気に包まれた。



■ 新たな人生を、新たな進路を開拓するために、退職予定者のみならず、当日予定の付いた現職隊員も詰め掛け、企業担当者の説明を真剣に聞き取る姿が見られた。

自衛隊長崎地方協力本部（本部長 佐々木昌貴1等海佐）は令和8年2月5日（木）、陸上自衛隊大村駐屯地体育館において、「令和7年度就職援護フェア」を開催した。本フェアは、若年定年退職予定隊員及び部隊援護担当者を対象とした取り組みで、自衛隊長崎地方協力本部として初の開催であるとともに、九州・沖縄地区の地方協力本部全体としても初の試みであった。

本フェアは、参加隊員らが民間企業の現状や業種特性について理解を含め、円滑な再就職につなげるとともに、参加企業側にとつても自衛隊で培われた規律性や協調性を備えた人材と直接交流するほか、退職自衛官の再就職支援制度について理解を深める機会とすることを目的として計画したものである。

当日は午前の部及び午後の部の2部構成で開催し、陸・海・空各自衛隊の隊員ら延べ250人が参加、会場には建設、製造、運輸、医療、福祉、金融、サービス業など幅広い分野から45社に及ぶ企業が一堂に会し、企業概要や業務内容等について説明が行われた。参加隊員は、各企業担当者の話に真剣に耳を傾け、仕事内容や必要資格、勤務条件などについて具体的な質問を重ねる姿が見られた。

参加隊員からは「多様な業種の説明を直接聞くことができ、大変参考になった」「退職後の進路を具体的に考える良い機会となった」と多くの声が寄せられた。また、参加企業からも「自衛隊で培われた規律性や責任感は大きな強み」「意欲の高い人材が多く、今後の採用につなげたい」といった評価を頂き、本フェアはを隊員及び企業の双方にとつて有意義な機会とすることができた。

（援護課長崎地域援護センター）

★改装前



★改装後



和式から洋式へ



生活・勤務環境の改善 魅力化実例

長崎防衛合同庁舎 便所の完全洋式化！

防衛省・自衛隊は隊員の生活・勤務環境の改善・魅力化のため尽力しているところであり、全国の駐屯地・基地で各種工事や所属隊員自身による工夫が行われております。自衛隊長崎地方協力本部の所在する長崎防衛合同庁舎においても、生活・勤務環境の改善・魅力化の一環として、大村駐屯地業務隊の支援により、各階のトイレがすべて和式から洋式となりました。

（総務課管理班）

防災

長崎防衛合同庁舎における避難訓練



長崎市消防局の指導員から訓練評価を受ける隊員



訓練用の水入り消火器を用いた、粉末消火器の操法訓練

自衛隊長崎地方協力本部は、今回の成果を踏まえて更に習熟できるように訓練に努めて長崎防衛合同庁舎の安全に寄与するとともに、今後も市民の皆様と連携に努めて参ります。

(総務課管理班)

発行時期変更について

平素から自衛隊長崎地方協力本部に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。皆様にご愛読頂いております「長崎地本だより」の発行時期変更についてお知らせ致します。令和4年5月号から年4回の発行としておりましたところ、諸般の都合により令和8年5月号以降は年3回(5月号、9月号、1月号)の発行とさせていただきます。今後とも一層充実した紙面をお届け致しまして、各協力団体の皆様、県民の皆様と防衛省・自衛隊の梯たる役割の一端を「長崎地本だより」が果たせますよう、今後とも精進して参ります。

読者の皆様におかれましては引き続きご愛読下さいますよう、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

自衛隊長崎地方協力本部本部長 1等海佐 佐々木昌貴

自衛隊長崎地方協力本部 (本部長 佐々木昌貴 1等海佐) は令和8年3月6日(金)、九州防衛局長崎防衛支局(支局長 佐々木正博 防衛事務官)と共同で長崎防衛合同庁舎避難訓練を実施した。本訓練は法令に基づき、長崎市消防局の指導を受けて年1回実施しているものであり、参加隊員は消火器をはじめ、各班毎にそれぞれ参加した。

当日在庁している全ての隊員は、火災の状況を付与された後、それぞれの役割に応じた避難訓練を開始し、また、各班は迅速かつ慎重に消火器の搬入、予め指定された物件の搬出、在庁者の避難誘導、負傷者救護の準備等、各班の任務を全うした。訓練終了後は消防局員から消火器の操作法について実演して頂くとともに、消火器を中心に訓練用の消火器を用いた訓練を実施した。参加隊員からは「久々の訓練であり、大変勉強になった」「火災の際にどう行動するか、思い返す良い機会となった」と認識を新たにしていた。今年度自衛隊長崎地方協力本部・九州防衛局長崎防衛支局に転入、或いは新規採用された職員にとっては初の訓練参加であり、知識として知っているだけでなく実際に訓練して体で覚える貴重な機会とすることができた。



出火場所(想定)に向け消火器を用いた消火を実施

人事異動

◆新規採用 令和8年2月1日付

◎長崎地域援護センターへ
非常勤隊員 三浦 祐子

◆転入 令和8年3月16日付

◎高射学校(下志津)から
長崎募集案内所へ
3等陸佐 山田 浩二

◎第10即応機動連隊(滝川)から
本部 募集課長へ
3等陸佐 塘 龍樹

◎第16普通科連隊(大村)から
島原地域事務所へ
3等陸尉 松本 祐二

◎第4施設大隊(大村)から
本部 募集課へ
准陸尉 宮本 国往

◎第2飛行隊(旭川)から
本部 募集課へ
1等陸曹 衛藤 慎一

◎第21普通科連隊(秋田)から
琴海地域事務所へ
1等陸曹 寺田 長寿

◎西部方面総監部付隊(健軍)から
総務課管理班へ
1等陸曹 川良 将吾

◎佐世保システム通信隊(佐世保)から
佐世保出張所へ
2等海曹 橋本 栞

◎第8航空団(築城)から
長崎募集案内所へ
2等空曹 鈴木 貴裕

◆転入 令和8年4月1日付

◎自衛隊鹿児島地方協力本部
援護課長から本部援護課長へ
防衛事務官 土居 美紀

◎西部方面総監部(健軍)から
本部 援護課予備自衛官班長へ
防衛事務官 丸谷 二郎

◎山口駐屯地業務隊(山口)から
本部 総務課会計班長へ
防衛事務官 中武 敏治

◆転入 令和8年4月1日付

◎自衛隊宮崎地方協力本部から
本部 総務課へ
防衛事務官 堀口 新也

◎自衛隊佐賀地方協力本部から
本部 援護課へ
防衛事務官 松本 昂己

◆新規採用 令和8年4月1日付

◎本部 募集課へ
防衛事務官 阿津坂 優

◎諫早地域事務所へ
防衛事務官 森 眞司

◎琴海地域事務所へ
防衛事務官(再任懸) 串崎 康也

◎長崎募集案内所へ
防衛事務官(再任懸) 満居 浩

◎佐世保出張所へ
非常勤隊員 山崎 光義

◎諫早地域事務所へ
非常勤隊員 川口 美幸

◎琴海地域事務所へ
非常勤隊員 寺下 千里

◎長崎募集案内所へ
非常勤隊員 濱里 幸香

◆転出 令和8年2月15日付

◎本部 募集課計画班から
西部航空警戒管制団
(団司令部人事部)付へ
2等空曹 中武 桂子

◆転出 令和8年3月16日付

◎本部 募集課長から
九州補給処(目達原)へ
3等陸佐 池田 秀樹

◆転出 令和8年3月16日付

◎長崎募集案内所から
補給統制本部(十条)へ
陸曹長 高山 寛雄

◎島原地域事務所から
第102高射特科隊(竹松)へ
陸曹長 宮本 福士

◎琴海地域事務所から
西部航空警戒管制団(背振山)へ
空曹長 船越 早人

◎佐世保出張所から
防衛大学校へ
2等陸曹 島田 雄大

◆転出 令和8年4月1日付

◎本部 援護課長から
海上幕僚監部(市ヶ谷)へ
防衛事務官 羽入田 和巳

◎本部 総務課から
大村駐屯地業務隊(大村)へ
防衛事務官 市原 真由美

◎本部 援護課から
西部方面総監部(健軍)へ
防衛事務官 平松 聖香

◎本部 募集課から
自衛隊福岡地方協力本部へ
防衛事務官 江藤 大輔

◎本部 援護課から
西部方面総監部(健軍)へ
防衛事務官 岩永 新伍

◆退職 令和8年3月31日付

◎本部 援護課予備自衛官班長
防衛事務官 串崎 康也

◎本部 総務課会計班長
防衛事務官 川西 賢

◆任期满了 令和8年3月31日付

◎本部 援護課
長崎地域援護センター
防衛事務官 吉居 雅博

◎長崎募集案内所
非常勤隊員 満居 浩

◎本部 援護課予備自衛官班
非常勤隊員 前田 真里子